遠野に移住し起業を目指す皆さんを紹介 **Vol.14**

# 遠野で起業に挑戦中！

平成28年から市と(株)ネクストコモンズが手がける「ローカルベンチャー事業」。遠野に移り住んだ10数人の起業・事業化に向けた活動の様子やイベント情報などをお伝えします。

## 遠野醸造TAPROOM（タップルーム）1周年

5月、ビールプロジェクトの袴田大輔（だいすけ）隊員、太田睦（むつみ）隊員、田村淳一（じゅんいち）隊員が手がける「遠野醸造TAPROOM」が1周年を迎えました。オープン当初から「品質の妥協は絶対しない」「地域に根ざしたコミュニティブルワリーになる」ことを常に意識。試行錯誤を繰り返しながら前進してきました。引き続き、地域に根ざした醸造所を目指し、「ホップの里遠野」さらには、「ビールの里遠野」で新たなビール文化を作っていきたいと意欲を新たにしました。

1＿店の前にて。左から、袴田隊員、太田隊員、田村隊員
2＿５月３日～10日は、１周年感謝ウィークを開催！　１周年記念の限定ビールやフードメニューでたくさんのお客さまと喜びを分かち合いました　3＿魅力ある上郷を楽しみましょう！

### イベント　6月に企画しているイベントです お気軽に問い合わせください

## おもしろTONO学～上郷編～

「遠野をおもしろがる」をテーマに開催しているフィールドワーク。今回は、上郷町をおもしろがります。上郷の歴史・文化・人に触れてみませんか？

- ●日時　6月22日(土)、10時～15時半
- ●参加費　市民1,500円（市外在住者2,500円）
- ●問い合わせ
  to knowプロジェクト　富川（とみかわ）
  メール：gaku@tomikawaya.com

# 伊香学（まなぶ）のチャタヌーガNOW（ナウ）！ Vol.13

米国チャタヌーガ市との交流を、派遣職員・伊香がお伝えします！
今月は、アレックス・マッキントッシュさんのインタビューです。

アレックスさんと夫のキーフさん。２人は、遠野が縁で知り合い、結婚しました。

アレックス・マッキントッシュさん

遠野の皆さん、こんちには！　私は今、米国ノースカロライナ州のビーチの近くに住んでいます。今でも遠野の人や風景、食べ物などすべてが懐かしく思い出されます。遠野三山のハイキングは最高の思い出のひとつです！　毎日の徒歩通勤では、自宅から市民センターまで、高校生や市民の皆さんが声をかけてくれ、とっても嬉しかったです。機会があれば、ぜひチャタヌーガ市に来てくださいね。そして、私が住むノースカロライナ州にも来てもらえたら嬉しいです！

アレックス・マッキントッシュ（旧姓：ヒューイ）さんは、2016年10月から翌年11月まで、遠野市教育文化振興財団の国際化推進支援員として遠野で勤務しました。

遠野文化研究センターだより　とおのじん　－其の13－

# 遠野人

遠野文化研究センターの活動に興味を持っていただけるような情報を、お届けしています。今月は、『遠野物語』発刊110年と、文化による街づくりについてです。

★筆者　木瀬（きせ）公二（こうじ）

遠野文化研究センター研究員、朝日新聞・社友記者。1948年東京生まれ。73年朝日新聞入社。元朝日新聞盛岡総局長。08年に達曽部に移住。著書に遠野物語関連の『119のはなし』など。

## 『遠野物語』発刊110年は来年です

さまざまな人が参加した交流会

１月に、「遠野文化まちづくりネットワーク交流会『遠野物語』☆超会議－発刊110年へキックオフ！」という集まりがあった。「いったい何をする集まりなの？？？」という声をいくつか聞いたが、それほど難しいものではない。来年の発刊110年をきっかけに、これまで以上にすてきな遠野をつくっていきましょうという集まりなのだ。だが、主催が当文化研究センターだったこともあって、誘った人の何人かは「文化的集まりは、私は場違い感いっぱいだから～」と参加を見送った。いくつかの誤解があって、そういう選択をさせてしまったようだ。

「新しい道路を作ろう」「立派な建物を建てよう」ということであれば分かりやすいのだが「文化の街づくり」と言われると「自分とは縁のない高尚なものだ」と思い込んでしまう傾向がうかがえる。でも違うのです。例えばこうです。

お母さんは、貧しい食材を前に、どうしたら子供たちにおいしい食事を作り元気になってもらえるかを考え、工夫しながら作り続けている。これは「郷土料理」と呼ばれ、立派な遠野の文化です。薄く小さな布しかない中で、家族がどうしたら暖かく過ごせるかと考えて縫い、はたを織り、出来上がった着物も立派な郷土文化です。美しい田んぼや山があるのは、その風景を保ってくれている人たちがいるからで、それを担っている人たちは文化人です。かやぶき職人も同じです。

要するに、普段の暮らしそのものが文化なのです。そういう物がある遠野はどういう町なのかを見つめ直し、そこから見えてきたものを街づくりに生かしていこうというのが、ここの集まりだったのです。

そのために何ができるか。ワイシャツを着てネクタイをしている人たちだけで会議をしても、ネクタイをした意見しか出てこないのです。長靴を履いて野良着を着て、前掛けをした人たちがいて、町はできているのです。その人たちの考えが反映されなければ、すてきな街づくりはできません。

かやをふく職人

先日ある人から「遠野には宝物がたくさんあるとか、磨けば光る原石がたくさん埋まっているとかよく聞くけど、宝物も原石も見たことがない。みんな石っころにしか見えないもの」と言われた。私たち文化研究センター員らは、何がその原石かを皆さんと一緒に考え、探し磨いてもらいたいと思っているのです。

来年６月の発刊110年までに、この欄や遠野市教育文化振興財団の広報などで、「こんなことを考えている。どう思いますか」というお知らせをしたいと思っております。交流会も計画しております。ぜひぜひ「長靴を履いた意見」「前掛けをした意見」をお寄せいただきたいと思っております。楽しみに待っています。

### ★お知らせ

#### ６月14日は『遠野物語』の日

毎年６月14日は「『遠野物語』の日」です。明治43年(1910)６月14日に『遠野物語』が発刊されて109年が経ちます。これを機会に同日は遠野市立博物館は入館無料となります。読んだことがある人もない人も、ページを開いてみませんか。

★問い合わせ：遠野市東館町3-9（遠野市立博物館内）/TEL:60-2800/FAX:62-5758/MAIL:tono100@city.tono.iwate.jp